

---

# 司書課程の授業での Next-L Enju の利用

---

岡田大輔 (相愛大学)

# 自己紹介

---

- 相愛大学で司書・司書教諭課程を教えている
- 理工学研究科 数理科学専攻修了で  
高校で情報の非常勤講師をしていたこともあるが、  
コードは書けない

# 1 授業での Next-L Enju の利用

---

- スライドの中にキャプチャ画像を“利用”
- 学生の前で Enju を使って実演  
→ 現在は「情報資源組織演習」を持っていないこともあり、学生が Enju を触る機会はない
- 公共図書館の OPAC は紹介するが、他の図書館システムは取り上げていない

# 1.1 図書館システムというものの紹介

## 「図書館情報技術論」

---

- スライドで紹介

- 既製品を買ってくるのがほとんど
  - ← 図書館が独自で開発したりはしない
  - その図書館独自のやり方のために、業者に改造してもらうことはある
- Enju<sup>エンジュ</sup>などのフリーソフトもある
  - パソコンに詳しい人ならば、個人でインストールできる
  - 実際にEnjuを使っている図書館もある

## 2.2 よくある貸出の方法

---

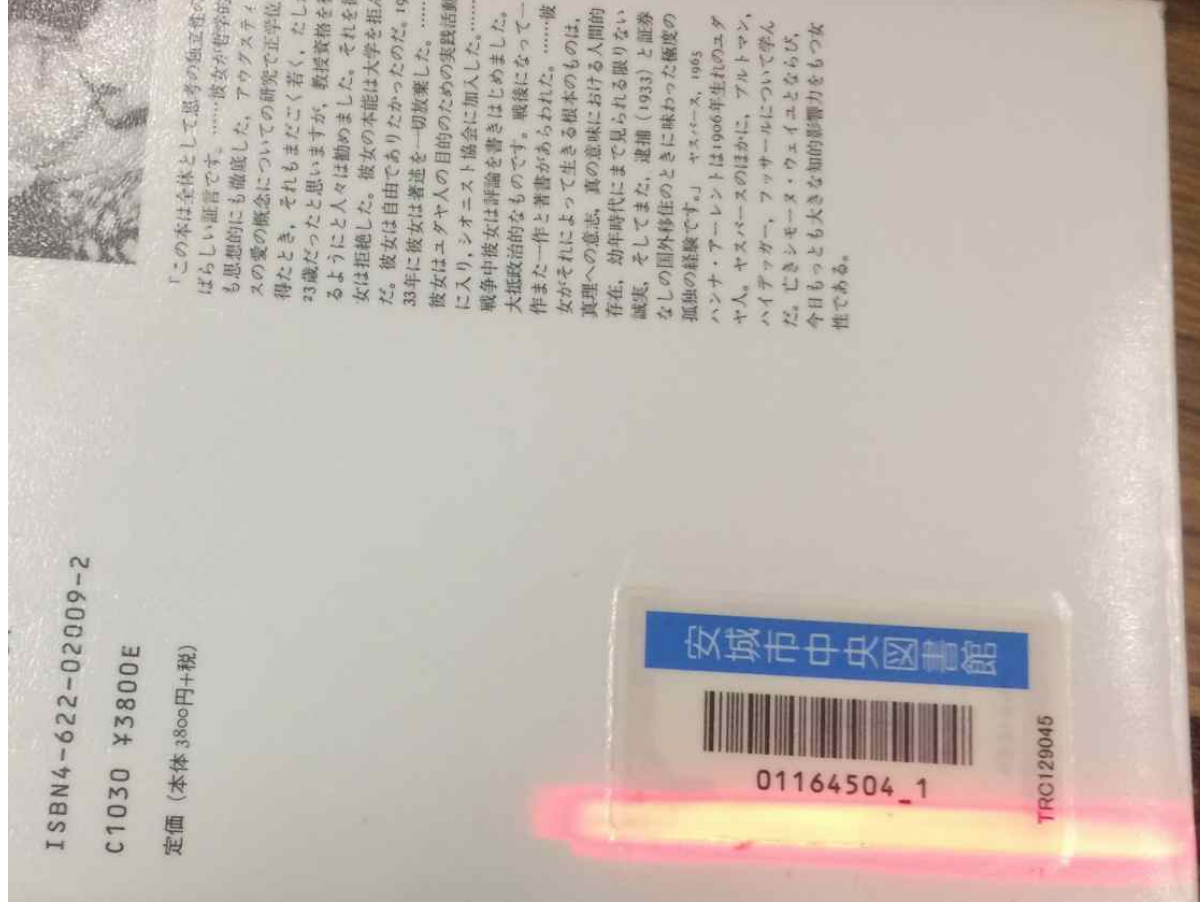
### 1. 利用者のカードを読み込む



18

5

## 4. 本のバーコードを読み込む



20

6

5. (何か問題があれば止めてくれる)

← 他の人に貸出中の本を貸そうとした場合


**貸出資料に2個のエラーが発生しました**

次の項目を確認してください

- この資料はすでに貸し出されています。
- この資料の貸出はできません。



## 6. 確認のためにマウスでクリックする設定にもできる

タイトル	所蔵情報ID	返却期限
<a href="#">イエルサレムのアイヒマン：悪の陳腐さについての報告</a>  Arendt, Hannah, 1906-1975 大久保, 和郎, 1923-1975 みすず 書房 (1994) ndc8: 316.88	<a href="#">011645041</a>	2020年11月27日

上記の資料を貸し出す

が私は使わない設定にしていた

7. 「11月27日までです」と口で言う

8. おわり

- 必ず貸出カード → 本の順で読み込む必要がある

- 「ICOCAでジュースを買うときは、先にジュースのボタンなので戸惑いました」の感想が出たことはある

## 1.2 目録とは「情報資源組織論」

---

- 初回の授業で、“誰かがこういうものを入力している”の説明

## 2.4 目標2 「目録の作成方法が分かる」

- ある情報資源を探せる = 目録
- 書名、著者名、出版者名、大きさ...

### 資料の編集

\* 印のついている項目は入力が必要です。

\* 原題

図書館の主 = Master in library

タイトルのヨミ

トショカン ノ アルジ

代替タイトル

Master in library

責任表示

篠原ウミハル 著

逐次刊行物

版		版 (数字)	
巻	6	巻 (数字)	6
号		号 (数字)	



- 表示
- 削除

## 1.3 目録とは「学校図書館メディアの 構成」

---

- 作成はそれなりに大変

\* 印のついている項目は入力必須です。

\* 原題

図書館の主 = Master in library

タイトルのヨミ

トシヨカンノアルジ

代替タイトル

Master in library

責任表示

篠原ウミル 著

## 1.4 コピーカタロギング「学校図書館メディアの構成」

---

- 学生からその場で本を借り、(この本が皆にさらされてもいいかと確認してから) 実演している  
← バーコードリーダーを教室に持って行っている



## 1.5 書誌データと所蔵データは別画面 で入力「情報資源組織論」

---

- NCR2018の4階層を教える前段として実演
  - － 著作 - 表現形 - 体现形 - 個別資料
  - ← 今のシステムでも、個別資料の部分  
(所蔵情報IDと請求記号など)は別画面で入力する

## 4.1 今でも、バーコードの番号を入力するページは別になっている

---

- 1つの図書館が同じ本を2冊以上持っているときのために
- もちろん、同じ情報を2回入力してもいいのだが、利用者にも司書にもまとまっているほうがありがたい
- OPACで検索した場合も1まとまりに出る

9



## 火花

又吉 直樹/著/文藝春秋/2015.3/Fマタヨ◇Fマタヨ◇913.6

所蔵件数:124件 全館予約状況:予約はありません。

予約カートに入れ

所蔵館	場所	ラベルの記号	備考	状態
中央	地下1階 文学コーナー	Fマタヨ//		
中央	地下1階 文学コーナー	Fマタヨ//		貸出中です

▶ 続きを見る (所蔵124)

26

18

## 4.2 ただ、単行本・文庫本は別の本

- 単行本・文庫本は別の本扱いなので、検索結果も別に出る

9

**火花**

又吉 直樹/著/文藝春秋/2015.3/Fマタヨ◇Fマタヨ◇913.6

所蔵件数:124件 全館予約状況:予約はありません。

予約カートに入れ

所蔵館	場所	ラベルの記号	備考	状態
中央	地下1階 文学コーナー	Fマタヨ//		
中央	地下1階 文学コーナー	Fマタヨ//		貸出中です

▶ 続きを見る (所蔵124)

5

**火花**(文春文庫 ま38-1)

又吉 直樹/著/文藝春秋/2017.2/Fマタヨ◇Fマタヨ◇913.6

所蔵件数:25件 全館予約状況:予約があります。(2件)

予約カートに入れ

所蔵館	場所	ラベルの記号	備考	状態
中央	地下1階 文学コーナ(文庫)	Fマタヨ//		貸出中です
中央	地下1階 文学コーナ(文庫)	Fマタヨ//		貸出中です

▶ 続きを見る (所蔵25)

→ 新NCRではこういうものをすっきりさせたい

28

20

## 2 Enju 開発者へのお願い

### 2.1 NCR2018の用語とそろえてほしい

\* 印のついている項目は入力が必要です。

\* 原題

☒ 図書館の主 = Master in library

タイトルのヨミ

トショカン ノ アルジ

代替タイトル

Master in library

責任表示

篠原ウミハル 著

- 原題 → 本タイトル

## 2.2 言葉がヘン

---

### 返却の新規作成

所蔵情報ID:

返却 (取り消しはできません)

タイトル

所蔵情報

返却期限

利用者アカウント

### 貸出セッションの新規作成

利用者番号

読み込み

- 「手動で資料を登録する」はとても分かりやすい

## 2.3 現場で使える作り込み

---

- “学校図書館なら欲しい機能”を「学校図書館サービス論」で言うが、口で言うだけになっている
  - 現場で使っていた「探調TOOL」というシステムでは、以下は実装されていた
1. 000000000が入力されると貸出モード、  
999999999が入力されると返却モードに切替  
← 000000000と999999999のバーコードを印刷し、ブッカーでカウンターに貼る





「雨の日の図書室」『宮原教育の窓』

<https://blog.goo.ne.jp/miyaharasho/e/28088bdc154f8688ed9ebe2d4bc6731a>

21

24

2. 利用者IDの番号の範囲を指定でき、その範囲の数値が入力されると貸出モードに切替
3. 最後に確認をクリックしなくても、貸出処理は終わっている(ようにも設定できる)
4. 貸出中の本でも、はいをクリックすれば、貸出できるとともに、返却処理もなされている

## 5. TRC MARCの取り込み

← 図書館向けの業者に発注すれば、発注リストからMARCを一括ダウンロードできる。届いた本を1冊1冊読み込む必要もない

6. パスワードを入れなければ、“図書委員モード”で立ち上がる
7. “図書委員モード”では、利用者が現在借りている本は見られないなどの機能制限がある  
→ “この利用者は延滞中です”の警告を図書委員モードでも出すか、を「学校図書館サービス論」で議論した

## 3 “Enju 教育版” へのお願い

---

### 3.1 4階層ごとに入力画面を分けてほしい

---

- 著作の属性を入力して“次へ”をクリックし、表現形の属性を入力して“次へ”をクリック、、、  
← 4階層が意識できるように、わざと入力画面が分かれている

## 3.2 著者標目はVIAFのIDを入力

---

- 外部の著者データベースから引いてくる
  - 著者のVIAF IDを入力すれば、著者名が表示される
  - ただ、いきなり漢字で入力しても、外部から引いてきた候補が漢字変換のように表示される

## 3.3 LMS機能

---

- 教員からどの学生がどのような書誌データを作成したのかわかる
- 別ユーザが同じ所蔵情報IDの本の書誌データを作っても、警告などは出ず作成できる
- 最終的に教員からマージできる

# 4 フリーでオープンソースである メリット

---

## 4.1 フリーであるメリット

---

- (デモサーバーで)完動品が使える
- (前任校ではサーバーを立て、「情報資源組織演習」をしていた)
- 企業などにもお願いしなくてもよい



## 4.2 オープンソースであるメリット

- (自分で授業に合わせて修正できるはずだが) 活かせていない
  - “原題 → 本タイトル” もやってない
- (開発コミュニティにも参加してない)